平成２１年度　第１回函館市労働問題懇談会　会議録

１　日　時　平成２１年７月２１日　午後３時～午後４時１５分
２　場　所　函館市勤労者総合福祉センター視聴覚室
３　出席者　函館公共職業安定所雇用開発部長　三　浦　　淳
函館商工会議所中小企業相談所長　柿　崎　清　美
北海道中小企業家同友会函館支部事務局長　伊　藤　　浩
連合北海道函館地区連合会組織部長　山　田　幸　光
全労連・函館地方労働組合会議事務局長　岩　瀬　英　雄
函館市経済部長　備　前　　悟
函館市経済部労働政策室長　種　田　貴　司
函館市経済部労働政策室労働課長　鈴　木　秀　明
函館市経済部労働政策室労働課主査　佐　藤　聖智子
函館市経済部労働政策室労働課主査　竹　崎　太　人

４　懇談内容
(1)　開　　会
(2)　主催者挨拶　　函館市経済部長　備　前　　悟
(3)　懇　談　会　　テーマ　労働問題の現状と市の取り組み

①　函館市の現状について
資料１　　種田経済部労働政策室長室長から説明
②　函館市の取り組みについて
資料２　　種田経済部労働政策室長室長から説明
③　今後の予定について
資料３～５　種田経済部労働政策室長室長から説明

【発言要旨】

（岩瀬事務局長）
資料４について，既に行っているものもあるということか。

（種田室長）
資料４のふるさと雇用の１～６は既に動いている。それから緊急雇用の１～１１番，７番の緑の公園・道路環境整備事業は，年明け１月からの雇用と考えている。７番以外の１０本は全てもう雇用をしている。

（岩瀬事務局長）
これは，職安を通じてか

（種田室長）
　全てハローワークを通じて，直接雇用するものについては市が，委託するものについては業者さんからハローワークに求人票を出している。
　直接雇用・委託雇用を含めて，労働課の HP に逐次，掲載をしている。
　事業によっても異なるが，３人４人のところに２０人３０人というケースもあるようだ。

（山田部長）
　労働相談の直接電話，或いは面談も含めて昨年より３倍くらい多い。
　特に労働基準監督署，法テラス，弁護士から基本的な部分を聞き，具体的な対応の相談になると連合に来る。
　例えば解雇されたが，具体的に解雇手当はどうなるのか，また今後，どうしたらいいんだろう，ということになると，連合さんに行ったら具体的に教えてくれるからそこ行ってくださいということ。
　連絡なしで来てもらっても，相談が重なってしまうこともある。
　ここでも労働のハンドブックを出して，結構「見ました」といって来る，フリーダイヤルはうちの番号だけだから，かけやすいのかと思う。
　結構，発行された時は効果があった。

（種田室長）
　なるほど。お手数をかけました。

（山田部長）
　いえいえ。あと，相談内容は，やっぱり解雇問題が圧倒的に多い。
　あと，意外とセクハラ，パワハラに関する嫌がらせが多い。そして次に多いのが賃金未払い。だいたいセクハラと賃金未払いは同数くらいの比率になっている。これがトップ３。
　そのうち，労働審判には３件ほど，少額訴訟が５，６件の状況になっている。
　相談が１回で済む人は少なく，賃金未払いだとか解雇問題抱えている方はだいたい５回から６回打ち合わせをしなければいけない。基本的には労働審判は，自分で書いて提出をするという仕組みだが，一般の方は殆ど記入できない。ＨＰを見て，メールでこのように作成したと送ってきた方に対しては，アドバイスで終わってることもあるが。
　雇用問題で，自主退職で辞めた方のうち，経営者とぶつかって，売り言葉に買い言葉で辞めたというのが非常に多い。後ではっと気付いたら実は，辞めたくない，どうしたらいいんだろうと，いう相談もある。アドバイスとしては，日が経ってないなら，まず，謝罪しなさいと。すると，なんとか回復はするんだろうが，４～５日，１週間も経つと，もう就職斡旋も含めて，ハローワーク等手続きが始まり，急募かけて，もう採用した，というケースが結構多い。
　短気にならない。という部分がうまく伝わっていけば，少なくとも函館で，５，６人は辞めないで済んでいる。

（種田室長）
　やっぱり函労さんも増えてますか？

（岩瀬事務局長）
　いや，そんなに極端には増えていない。
　でもあのハンドブックはそれなりに見てる人も結構いる。
　できれば，豪華なカラー版だけじゃなくて，白黒版で増刷り出来るようにしたら，我々も宣伝するとき撒いたらいいかなとか思う。

（山田部長）
　一番先にハンドブック見ました，何のハンドブック？ということになる。
　いきなりハンドブック見ましたって言われても。

（柿崎所長）
　あれが与える効果はあった。
　高校生の就職や，企業説明だとか，配付すればいいのでは。

（種田室長）
　去年，一回全戸配布やったが，全戸配布しても労働者の居ない家庭もかなりあるため，今年は高校生，大学生の卒業生など新しく労働市場に入って来られる方々に配るというような方法を考えたい。

（柿崎所長）
　資料の中で，本州，道内へ流出してしまっているということだが，私どもで合同企業説明会を開催しているが，今年の傾向として東京の函館出身の学生さんが函館に戻って就職をしたい，という方が相当数お見えになった。その方達をどう地元で就職していただける環境にしていくかということで対策を考えているが，将来的な市の人口減少にもある程度，歯止めをかける要素の一つになるかと思う。
　特に先ほどの資料２の中に，平成２０年度の実績で函館で就職を希望する首都圏等在住者と地元企業とのマッチング事業に２８社参加されて，５８名該当され，実際には３名しか決定されなかった。２８社が採用意欲があったと思うが，実際のところ３名しか決定されなかった部分について，詳しい話を聞かせていただきたい。

（竹崎主査）
　２８社参加して，来場者が１５８名で，その中で採用してみたいと面接の前段階まで進んだ方も多くいたが，その選考，企業とのやりとりの中で，最後に残ったのは，３名という結果であった。
　結局マッチングということになるので，なかなか一概に上手く行かないところもあるが，最初の段階で採用したいと思った方が結構いたということになる。

（種田室長）
　企業側からは十数人の方に面接なり，もう一回また再度アプローチしたいという話だったが，断った人もいた。

（柿崎所長）
　東京方面に行かれた方も，地元に戻って就職したいという新卒，技術技能を持たれている方をどうマッチング，あるいはその辺を調整していくのかというあたりをこれから真剣に考えていかなければならない。

（種田室長）
　この事業は，東京での面接会だが，その他にＩＪＵターン相談コーナーがあって，市のＨＰ上で登録していただいている企業と，登録している函館に来たい方とがお互いに興味あれば紹介するということは，この東京の面接会の他に一年間通してやってはいる。
　これもなかなか相思相愛にはならない。実は，去年一年間で一件。
　やっぱり顔と顔を合わせるのと，ネット上での紹介ではネット上の方が，率が悪い。

（柿崎所長）
　もったいない。

（種田室長）
　この事業もぜひ続けていきたいと思っている。先ほどの資料５の雇用創造推進事業でも，このような面接会，東京の他に札幌でもやりたいと思っている。ぜひ企業が欲しい人たち，函館に帰ってきたい人たちのための仲立ちを市として行っていきたいと思っている。

（伊藤事務局長）
　中小企業団体の事務局ですから，会社が民事再生法等というケースになるのを心配している。
　私どもの支部は渡島桧山がエリアですから，ナルミさんの倒産で，地域全体が沈んでいる。
　檜山の基幹産業は実は農業漁業ではなくて，建設業ということは皆さんご承知のとおりだが，そういった中で公共事業が減って，今回ナルミさんの影響でそういう情勢であるということが非常に気になる。
　先だって，函館大学の先生とお話しする機会があって，関係機関とともに函館大学で学生さん何人かとお話をしようということになった。今大学で一生懸命やってるのがキャリア教育，就職教育で，例えば商学部は商学を勉強するということだが，それとは別に意識を持って大学が就職活動するということに一生懸命にならざるを得ない，それを最優先にしない限り学生が動かないような状況らしい。
　教育大の先生とも話をしたが，一生懸命キャリア教育をしている。

函大の先生の言葉だが，何かしようといった時にその方法がわからないらしい。非常にリアルな話だと思ったのが，例えば，「伊藤君これどういう問題だろう」と，先生が聞く，しかし伊藤はわかんないから，「わかりません」と答える。「考えてみろ」と言う。とにかく通り過ぎるのを待つらしい。それでは駄目だということで，そういうことも授業の中で一生懸命，教えている。

学生にしてみると，就職活動，就活が全てになってしまい，方法論は見つけるが，それ以前の，例えば新聞記者になりたいとか，公務員になりたいとか，何のために公務員になりたいのかっていうのがわからない，という状況らしい。教育大の先生と話してもそういうニュアンス。これはちょっと大変だなと思う。

このようなことについて，一緒に何か取り組めることは無いのかと探りながら進めていきたいと思っている。

先ほど連合さんも相談があったという，個人的な意見だが，労働基準法だとか，そういったことを勉強する機会があるかというとない。しかも殆ど知らない。ケースバイケースだが，アルバイトで半年も勤めれば，退職金を貰えると思っている人もいる，そういう部分は不足しているかなと。

そういった事から言うと，経営者の側は色んな機会で，勉強する機会を持ってるから上手に対応しているということではなく，働いている側の人たちで，もっと色んな取り組みをしていくとか，働き方の問題とか，取り組む姿勢だとか，そういったことも含めてお互いにこれから高め合っていかないと，場面場面の，部分，部分を見てぶつかり合っていくと，お互いがあまりプラスな事はないような気がする。

（種田室長）

個々の問題と経営者の方々の立ち位置の問題はちょっと分けて考えなきゃない部分があるのかなと思う。

それでは資料６で，今年労働問題懇談会をどのように進めていくかということで，去年６回開催して，失業者の方々，経営者の方々，学校の先生の方々，色々お話を伺ったんですが，特に今年は，今，問題になっている新規高卒者の問題。それから，求職者失業者の方々のお話，労働条件の問題だとか色々係わってくるとは思うが，今年はここにポイントを絞らせていただいて進めさせていただけないかなと思っている。

特に第２回は去年，学校の先生と経営者の方々と個々にお話を伺ったが，一つの場に集まっていただき，直接やりとりをしていただくということが出来ないだろうかと。私どもが中に入ると，ただ伝えるということになりがちのため，直接話していただくような場を設けられないかなと。これも始めから４回限定だということではございませんので，こういうこともというのがあれば，増やすということもあると思うが，基本的な形として，こういうような進め方をさせていただけないかなと。

先ほど申し上げたようなふるさと雇用緊急雇用あるいは，雇用安定のための新たな制度だとか，そういったような取り組みもどういった推移を見せていくのかということも一方ではあるので，そういった状況も踏まえながら，柔軟に考えたいと思う。

（岩瀬事務局長）

この事業は全部，経済部でやってるんですか？お膳立てするの。

（種田室長）
　お膳立てするのはそうだが，もちろんうちばかりで全部が全部，対応しきれない部分は，特に，資料４のふるさと雇用緊急雇用については，例えば市有林の現況調査となれば農林水産部に窓口はお願いしてる。ただ，集約はやっぱりうちの方で，道とのやりとりだとかなどは，私どもの方で一本化してやらなきゃならない。

（伊藤事務局長）
　資料５の１と２もやるのか？

（種田室長）
　これは私ども労働政策室に協議会の事務局を置いて実施します。

（伊藤事務局長）
　この１番のＩＴ活用レベルはどのようなものか。

（種田室長）
　これはまず３年間は国のお金をいただいて，中小零細の方々のＨＰも無料で作ってあげるし，販路拡大のための色々なツールも開発して，提供しましょうということなんで，まずは協議会がやりますよと，一緒にやってみませんか，ということです。

（伊藤事務局長）
　２つ目は，ぜひ工夫して函館は挑戦すべきだと思う。出来ればだが，北斗市だとか，函館市の事業だから難しとは思うが２月の冬フェス，木古内の寒中みそぎなどのお祭りなどと組み合わせをしていく。
　それから，大学の文学部の歴史だとか，そういう経済史だとか歴史物も，文学部って卒業論文が必修。卒論のネタを提供するというのは結構いいと思っている。
　亀井勝一郎について書きませんかと，詳しいのはこういう人が居ますと，こういうところ訪ねて行くとか，例えば街の産業であればイカについての産業を調べてみるならこういうところも見学できるなど，当面実験として，東京の私立でも国立でもゼミ単位でやれば１人や２人来るのかなと。
　あとは６０代，５０代の方もそうですけども，私立の東京の大学のＯＢ，ＯＧの人って結構居る。だからそういう同窓会を通じたとか，最初その狙い撃ちでいいと思ってる。

（種田室長）
　同志社が夏に来る。ああいうようなネタをどんどん揃えるということですね。

（伊藤事務局長）
　そう。慶応大学の学生が来て何かやったことがある。あれを細かくして，有名な作家もいるし，歴史もあるし，

（種田室長）
　夏期セミナーシリーズですね。

（伊藤事務局長）
　あと函館野外劇。野外劇を見て，その後，商談しませんかっていうパックもあると思っている。
　札幌の人をご案内して観せたら，感激する。函館以外の方はすごいと言う。函館野外劇観せて，函館はこうだということを話していくと，話のスタートが違うという。
　だから，函館野外劇を見せて，商談をするんだったらこの時期に函館に来ませんかっていうのもあると思う。
　そういった工夫をしてくとね，函館っていうのはネタがあるので，そこから雇用が起きればいい。

（種田室長）
　貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。何かご発言は？
　去年に引き続き懇談会という事で，非常に雑駁な進め方で申し訳無いが，自由に発言があれば。
　よろしければ，第１回目ということで，本日この程度とさせていただきまして，また次回は，９月の下旬に，皆さんに日程調整させていただいて，お集まりをいただきたいと思います。

以　　上